



Design your passion

株主のみなさまへ

第86期 中間報告書

2010.4.1—2010.9.30(平成22年4月1日—平成22年9月30日)



株主のみなさまへ

2010年を「第2の創業期」の
総仕上げの年とし、次なる新たな
ステージへ向け成長し続けます。



取締役会長

箕浦輝幸

取締役社長

豊田周平

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに「第86期 中間報告書」をお届けし、当社グループの経営方針を改めてご説明いたしますとともに、当第2四半期(2010年4月1日～2010年9月30日)の業績概況、事業概況をご報告いたします。

新しいビジョンを策定し、全社一丸となって 取り組んでおります。

トヨタ紡織グループは、2010年度までを「第2の創業期」と位置づけ、「足元固めの取り組み」と「将来の発展のための先行施策の取り組み」を進めてまいりましたが、その後のさらなる成長を視野に入れ、新たなビジョンを制定いたしました。新たなビジョンは「明日の社会を見据え、世界中のお客様へ感動を織りなす移動空間の未来を創造する」といたしました。環境変化への柔軟な対応、グローバルな顧客の期待を超えようとする意思、将来の事業領域拡大、自ら提案・実行するという決意をこめたものになっております。今後も、当社グループすべての社員が心をひとつにして、よりよいモノづくりに努め、株主のみなさまの信頼にお応えできるよう取り組んでまいります。

全地域においての大幅な台数の増加や グループをあげて取り組んだ収益構造改革の 成果により、前年同期比で増収増益となりました。

上半期の業績につきましては、主に主要顧客向けの販売の増加により、ほとんどの地域で前年同期を上回る結果となり

ました。

日本では、プリウスをはじめとする政府の環境対応車への優遇施策による増産効果、北米では、昨年度立ち上げた車種の増産効果、またアジアでも、市場の成長による台数増加などにより、前年同期比で大幅な増収増益となりました。

また、低操業でも利益の出せる体質を確立するため、グループをあげて徹底的に製造原価改善などの収益構造改革に取り組んできました。

一方、当社が積極的に取り組んでおります成長著しい新興国への対応としまして、中国長春で内装部品会社を設立、またブラジルでは新たに小型車向けの内装部品およびエンジン吸気系部品の生産を決定するなど、将来の市場の成長を睨み、着実に準備を進めてまいりました。

これらの結果、当期の売上高は5,036億円(前年同期比1,090億円増)、営業利益213億円(同213億円増)、経常利益198億円(同228億円増)、当期純利益は91億円(同160億円増)という業績となりました。

また配当金につきましても、これまでの業績推移、経営環境などを踏まえまして、前期中間配当金より3円増配の8円とさせていただきます。

通期予想は上方修正いたしましたが、下期の外部環境は大変厳しいものと認識しています。

通期予想に関してましては、売上高9,700億円、営業利益340億円、経常利益320億円、当期純利益100億円を見込んでおります。これは主に主要顧客向けの販売が

計画に対して好調に推移していることに加え、収益確保のための合理化が順調に進んでいるためです。

しかしながら、下期以降の当社を取り巻く外部環境は大変厳しいと認識しております。

第1四半期には立ち直りの兆しが見えたものの、足下では急激な円高や株安の進行、欧州での信用不安など先行き不透明感が消えず、景気の2番底懸念も残っています。また自動車業界においても、国内市場におけるエコカー補助金制度の適用期間終了による需要減少、中国市場の伸び率鈍化、為替動向など、比較的好調であった上半期とは、環境は大きく異なると予想しております。

当社グループは、以上のような変化の激しい時代の流れに対応し、トヨタ紡織グループ全員のチームワークを発揮し、グローバルな競争に何としても勝ち残っていく覚悟のもと、新たな成長の実現を目指して挑戦してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

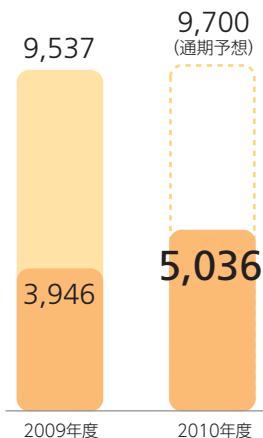


財務ハイライト

■ 通期
■ 第2四半期累計

売上高

(億円)



27.6%増

売上高は…

日本での環境対応車への優遇施策による増産効果や北米・中国での新車効果、既存車種の増加などにより増収となりました。

営業利益

(億円)



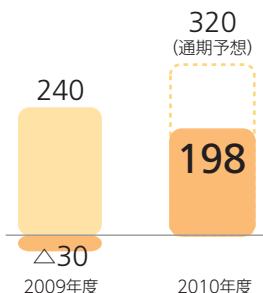
大幅増

営業利益は…

製品価格変動の影響や諸経費の増加などの減収要因はありましたが、全地域で増産増収の効果とグループをあげて取り組んだ収益構造改革による合理化効果などで、増益となりました。

経常利益

(億円)



黒字化

経常利益は…

営業利益の増加に加え、持分法投資損益などの営業外収益の増加により、増益となりました。

当期純利益

(億円)



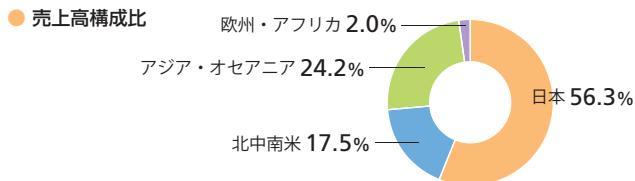
黒字化

当期純利益は…

特別損失の計上はありましたが、経常利益の増加により、増益となりました。



地域別事業概況



日本売上高の推移



20.3%増

環境対応車への優遇施策による、プリウス、HS250hなどのエコカーの新車効果などがあり、前第2四半期累計に比べ502億円(20.3%)増加の2,972億円となりました。

北中南米売上高の推移



37.9%増

アメリカ、メキシコなどでの新車効果、カナダでの既存車種の増産などにより、前第2四半期累計に比べ254億円(37.9%)増加の927億円となりました。

アジア・オセアニア売上高の推移



43.9%増

中国の天津、広州でのRV系車種の新車効果などにより前第2四半期累計に比べ、390億円(43.9%)増加の1,278億円となりました。

欧州・アフリカ売上高の推移



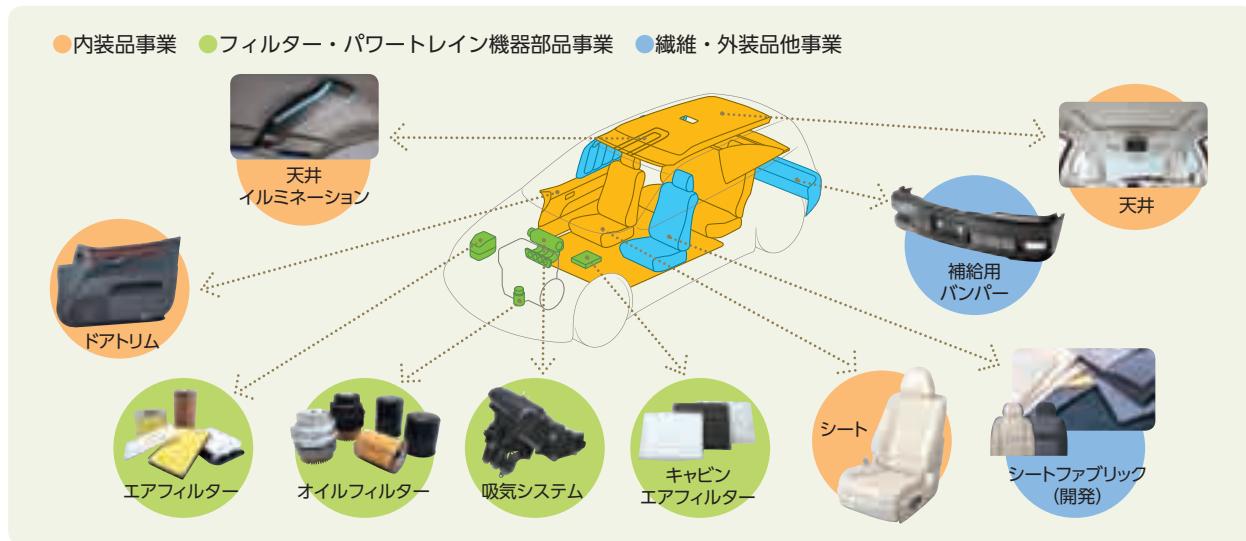
5.7%増

トルコでの台数減少などはありましたが、南アフリカでのRV系車種の増産などにより、前第2四半期累計に比べ、5億円(5.7%)増加の106億円となりました。

*当期より地域区分を変更しております。合わせて2009年度も同様に修正して表記しております。

「快適で感動を織りなす移動空間」と「低炭素社会の実現」を両立するトヨタ紡織の製品ラインナップ

トヨタ紡織では、クルマに乗る人がいつも心地よく過ごすことができるとともに、軽量化、植物由来材料の活用により低炭素社会の実現に貢献する、さまざまな製品を送り出しています。



主な環境製品

■ 新世代シート骨格



質量:-10%
部品点数:-25%
締結点数:-25%

従来型シート骨格と比較し、軽量化・省資源化を図りつつ乗り心地性能を追求しました。

■ 植物由来のシートクッション



石油資源の保護、地球温暖化抑制を目的に、シートクッションの材料の一部に植物由来の原料を使用しました。

ポリオール成分の一部を植物由来成分に置き換え(ひまし油)





トピックス

事業展開

中国長春に内装部品生産会社を設立

中国における最適生産・最適物流体制のより一層の強化を目指し、2010年8月、豊田紡織(中国)は、吉林省長春市に、現地企業と合併で内装部品生産会社を設立しました。

新会社は、トヨタ自動車(株)の長春新工場に納入するシート、ドアトリム、カーペット、ラゲージトリムなどを2012年前半から生産する予定です。

アイシン精機との合併で、ブラジルでの生産を決定

当社とアイシン精機(株)は、ブラジル サンパウロ州 ソロカバ市で、内装部品、エンジン吸気系部品生産の事業運営を合併で行うことを決定しました。

同社とはこれまでもシートフレーム部品の共同開発・生産で協力関係にあり、中国の広州市および天津市、ポーランドに続き4番目の合併会社となります。

グローバルな事業再編に着手

北米での最適な生産・物流体制を構築するため、トヨタ紡織インディアナとトータルインテリアシステムズアメリカを合併しました。

日本では、トヨタ紡織、(株)川島織物セルコン、豊田通商(株)の3社が設立したTBカワシマ(株)が2010年7月に本統合し、本格的な稼働を開始しました。



■ 2010年8月設立

国	社名	生産品目
中国	長春富維豊田紡織汽車飾件有限公司	シート、ドアトリム、カーペット、ラゲージトリムなど

■ 2010年4月 グループ企業としての一体感醸成のため社名変更

国	新社名	旧社名
タイ	トヨタ紡織サイアムメタル(株)	ARST(タイランド)(株)
インドネシア	(株)トヨタ紡織インドネシア	(株)アパディ パリンド オートテック
日本	TBソーテック九州(株)	アラコ九州相知(株)
	TBソーテック東北(株)	(株)関東シート北上
	TBソーテック関東(株)	ファミック(株)

■ 連結子会社数および関連会社数(2010年9月30日現在)

	子会社	関連会社
日本	17社(17社)	4社(4社)
北中南米	25社(26社)	0社(0社)
アジア・オセアニア	27社(24社)	4社(4社)
欧州・アフリカ	7社(9社)	2社(2社)

()内は前期末



トピックス

社会貢献

ダウン症児との交流活動、10周年イベントを開催

2001年にスタートしたダウン症児との交流活動「三ヶ日クルージング」の10周年イベントを開催しました。エンジェル^{※1}に所属する子どもたちとその家族、とよた学生プロジェクト、豊田市社会福祉協議会、当社のボランティアが参加し、ダンスやボールゲームを楽しみながら交流を深めました。

この活動には10年間で延べ500人の方々が参加されており、今後も継続して取り組んでいきます。

※1 ダウン症児とその他の染色体しょうがい児・者親の会



10周年イベントの参加者

救援衣料回収活動を実施

2010年6月5日、堤工場で救援衣料回収活動を実施しました。世界の衣料不足に悩む方々のお役に立ちたいという思いから、1999年以降継続的に実施しています。

地域の方々や社員約300人の方のご協力により、みかん箱170箱分の衣料と約25万円の輸送費の募金を集めることができました。今回みなさまのご協力により

「トヨタ紡織グループ『環境の森』 おおひら大衡」の森づくり活動を開始

2010年7月17日、トヨタ紡織およびトヨタ紡織東北(株)は、「トヨタ紡織グループ『環境の森』大衡」の森づくり活動開始にあたり、記念式典を開催し、その後トヨタ紡織東北の社員約40名が遊歩道を整備し、植生観察を行いました。

トヨタ紡織は、宮城県が進める森林整備事業のパートナー第1号として、2014年8月までの間、グループ社員やその家族が除伐などを行い、森林整備活動をサポートしていきます。また、新入社員教育での植生観察などを行い、地域の方々との交流をさらに深めていきたいと考えています。



開所式で記念看板の除幕を実施

回収した衣料は、NPO法人 日本救援衣料センター(神戸)を通じてアフリカ諸国(リベリア、セネガル)や中東諸国(ヨルダン)などに寄贈されます。



参加者とともに汗を流した「班長会」の社員たち

タイ科学技術展覧会、 中国国際自動車部品博覧会に出展

2010年8月、タイの子どもたちの科学意識の高揚を目的として、バンコクで開催された「National Science Technology Fair 2010」にはじめて出展しました。当社独自のプレス加工技術やケナフの製品化技術などを紹介し、トヨタ紡織の技術力をPRしました。

また、9月に北京市で開催された中国政府主催の「第4回 中国国際自動車部品博覧会」にも初出展しました。これまで当社が「環境にやさしいクルマづくり」へ寄与するために製品化に取り組んできた「軽量化・省エネ技術」や「バイオ技術」といった環境技術などを中心に紹介しました。



タイ バンコクで出展



中国 北京で出展

オールドトヨタ紡織技能コンクールを開催

2010年9月の3日間、「第5回オールドトヨタ紡織技能コンクール」が開催され、海外9カ国から11名が初参加し、総勢195人がモノづくりの現場で鍛えた技を競い合いました。先人から受け継ぎ、日々カイゼンを繰り返す

開発機能を集約・強化、環境にも配慮 「猿投開発センター2号館」を竣工

2010年5月に猿投開発センター2号館が竣工しました。これにより企画提案力と品質向上活動を強化し、価格競争力をさらに高めた内装システム開発を行うために、これまで各拠点に分散していたシート、ドアトリム、天井、フロアカーペットなどの開発・生産技術・生産の管理機能を集約しました。また、使用エネルギーを抑える建築デザイン、ソーラー発電システムや超高効率設備の導入などにより、一般的なビルに比べて1次エネルギー※2消費量40%削減を可能としています。

※2 石炭や石油、天然ガス、水力などのように、自然界にあるままの形状で得られるエネルギーのこと。



超高効率設備を導入した猿投開発センター2号館

返す技能をさらに高めていくために、今後も技能コンクールを継続していきます。



各国の社員も参加した技能コンクール



決算概要

■連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期末 (2010年9月30日)	前 期 末 (2010年3月31日)	科 目	当第2四半期末 (2010年9月30日)	前 期 末 (2010年3月31日)
資産の部			負債の部		
流 動 資 産	293,860	319,622	流 動 負 債	191,659	217,677
固 定 資 産	225,327	226,864	固 定 負 債	132,371	132,263
有 形 固 定 資 産	192,068	194,055	負 債 合 計	324,030	349,941
無 形 固 定 資 産	3,351	4,096	純資産の部		
投 資 そ の 他 の 資 産	29,907	28,711	株 主 資 本	188,169	181,260
資 産 合 計	519,187	546,486	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△21,879	△16,978
			新 株 予 約 権	777	625
			少 数 株 主 持 分	28,089	31,637
			純 資 産 合 計	195,157	196,545
			負 債 純 資 産 合 計	519,187	546,486

■連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計期間 (2010年4月1日~ 2010年9月30日)	前第2四半期累計期間 (2009年4月1日~ 2009年9月30日)
売 上 高	503,604	394,604
売 上 総 利 益	47,024	24,148
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	25,631	24,141
営 業 利 益	21,392	6
営 業 外 収 益	4,831	2,527
営 業 外 費 用	6,403	5,617
経常利益又は経常損失(△)	19,821	△3,083
特 別 損 失	254	-
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	19,566	△3,083
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	7,529	3,163
法 人 税 等 調 整 額	△1,197	△1,320
法 人 税 等 合 計	6,332	1,843
少 数 株 主 利 益	4,081	2,050
四半期純利益又は四半期純損失(△)	9,152	△6,977

■第2四半期配当金について

2010年9月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載
もしくは記録された株主または登録株式質権者に対し、次のとおり
第2四半期配当金をお支払いします。

1. 第2四半期配当金 1株につき8円
2. 効力発生日ならびに支払開始日 2010年11月26日



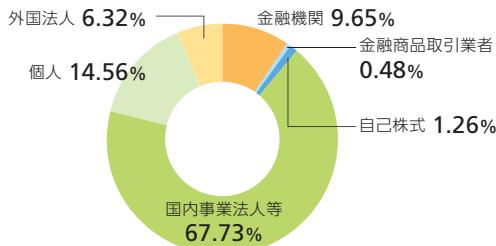
会社の概況

(2010年9月30日現在)

株式の総数 ——— 発行可能株式総数 500,000,000株
発行済株式の総数 187,665,738株

株主数 ——— 20,784名

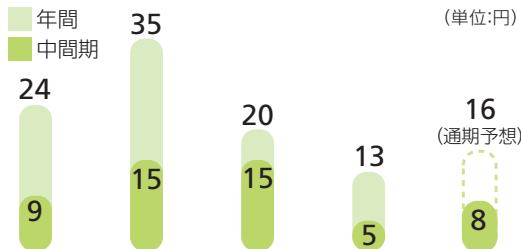
●所有者別株式分布状況



大株主 (上位10社)

株主名	持株数(株)
トヨタ自動車株式会社	73,653,995
東和不動産株式会社	18,346,209
株式会社デンソー	10,192,100
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	8,398,300
株式会社豊田自動織機	7,756,062
日本発条株式会社	7,220,500
豊田通商株式会社	4,367,100
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,192,100
ジェーピーモルガンチェースバンク385078	2,169,400
トヨタ紡織従業員持株会	1,917,019

●配当金の推移



2006年度 2007年度 2008年度 2009年度 2010年度

当社は、安定的な配当の継続を基本に、連結業績および配当性向などを総合的に勘案し、株主の皆様のご期待にお応えしていくことを配当の基本方針としています。

会社データ

設立 1950年5月
資本金 8,400百万円
従業員数 単独 8,079名 連結 28,567名
本社 愛知県刈谷市豊田町1丁目1番地

国内拠点

刈谷工場	猿投工場	豊橋南工場	東京工場
大口工場	藤岡工場	豊橋東工場	土橋工場
木曾川工場	高岡工場	田原工場	東京営業所
いなべ工場	堤工場	御殿場工場	大阪営業所
岐阜工場	豊橋北工場	富士裾野工場	堤北パーセンター

役員一覧

[取締役および監査役]

取締役会長	箕浦 輝幸	取締役(専務待遇)	伊藤 文隆
取締役社長	豊田 周平	取締役(専務待遇)	桂木 正樹
取締役副社長	野口 満之	取締役(専務待遇)	上田 広司
取締役副社長	鳥居 立雄	取締役	岡本 一雄
取締役副社長	川窪 英夫	取締役	徳田 寛
専務取締役	中川 泰	常勤監査役	内藤 正
専務取締役	古澤 昭	常勤監査役	伊藤 嘉徳
専務取締役	寺坂 幸一	監査役	石川 忠司
専務取締役	飯田 耕次	監査役	豊田 章男
専務取締役	渡辺 俊充	監査役	濱田 隆一
専務取締役	原 保信		

[常務役員]

常務役員	野田 憲一	常務役員	堀 弘平
常務役員	宮田 徹	常務役員	豊島 淳
常務役員	清水 匠	常務役員	山内 得次
常務役員	三吉 茂俊	常務役員	鈴木 輝男
常務役員	藤門 治夫	常務役員	森 久
常務役員	宮寺 和彦	常務役員	吉川 靖司
常務役員	杉江 保彦	常務役員	榊原 優
常務役員	大島 誠	常務役員	伊藤 嘉浩
常務役員	山田 義広	常務役員	鬼頭 修
常務役員	滝 隆道	常務役員	伊豆原 康之

株式事務のお取扱いについて

事業年度：4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会：毎年6月

配当金支払株主確定日：3月31日 なお、中間配当を実施するときは9月30日

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社
および特別口座管理機関

同連絡先：三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。
口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。

株式に関するお手続きについて

●特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none">●特別口座から一般口座への振替請求●単元未満株式の買取(買増)請求●住所・氏名等のご変更●特別口座の残高照会●配当金の受領方法の指定*	特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none">●郵送物等の発送と返戻に関するご照会●支払期限経過後の配当金に関するご照会●株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	[手続き書類のご請求方法] ●音声自動応答電話によるご請求0120-244-479 (通話料無料) ●インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

●証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none">●郵送物等の発送と返戻に関するご照会●支払期限経過後の配当金に関するご照会●株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
●上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください	